積算編

小型立坑　鋼製ケーシング式

REVO立坑機

レボ工法

積　算　編

小型立坑　鋼製ケーシング式土留工　積算

レボ工法　鋼製ケーシング式土留工

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
鋼製ケーシング圧入掘削工		m				C－1
底盤コンクリート工		m^3				C－2
圧入掘削設備工		箇所				C－3
鋼製ケーシング存置		m				C－4
仮設ケーシング損料		式				C－5
立坑水替工		箇所				C－6
レイタンス運搬処理工		箇所				C－7
残土処分工		m^3				表－3、C－8
機械運搬工		回				C－9
ケーシング撤去工		m				C－10
直接工事費　合計						

C－１号代価表　鋼製ケーシング圧入掘削工

１m当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
圧入掘削積込み工		m				D－1
ケーシング溶接工		箇所				D－2
ケーシング引上げ工		m				D－3
計						掘削深(m)当り
１m当り　計						計／掘削深(m)

D－１号代価表　圧入掘削積込み工

１m当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人	M×a/T			
特殊作業員		人	M×a/T			
普通作業員		人	M×a/T			
レボ立坑機運転費		時間	a			E－1
掘削機運転費	テレスコピック式	時間	a/1.9			E－2
トラッククレーン賃料	4.8t～4.9t吊	日	M×a/T			
諸雑費		式	1			
１m当り　計						

備考

1．圧入掘削積込み工の数量は、掘削深を計上する。
2．M ：１日当りの配置人員（技術編　P10　４－８－１　歩掛参照）
3．a ：１m当りの施工時間（技術編　P10　４－８－２　歩掛参照）
4．T ：圧入機の運転日当りの運転時間　$T=\dfrac{\text{年間標準運転時間}}{\text{年間標準運転日数}}$

E－１号代価表　レボ立坑機運転費

１時間当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
軽油		ℓ				0.175L/kW.h×kW
特殊運転手		人				T＝
レボ立坑機損料		時間	1			30kW
諸雑費		式	1			
１時間当り　計						

備考

1．$T=\dfrac{\text{年間標準運転時間}}{\text{年間標準運転日数}}$
2．機械損料には、レボ立坑機およびウエイトの損料を含む。

E－2号代価表　掘削機運転費

1時間当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
軽油		ℓ				0.175L/kW.h×kW
特殊運転手		人				T＝
掘削機損料		時間	1			kW
諸雑費		式	1			
1時間当り　計						

備考
1．現場状況、掘削深に応じた掘削機を用いる。
2．$T=\dfrac{\text{年間標準運転時間}}{\text{年間標準運転日数}}$
3．労務歩掛は、国土交通省土木工事積算基準の建設機械運転労務による。

D－2号代価表　ケーシング溶接工

1箇所当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
ケーシング溶接工		m				E－3
1箇所当り　計						

備考　ケーシング溶接工の数量は、ケーシングの割り付けにより、溶接接合箇所数分計上する。

E－3号代価表　ケーシング溶接工

1m当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人	0.15			
溶接工		人	0.30			
諸雑費		式	1			労務費の22％
計						10m当り
1m当り　計						計／10m

備考　諸雑費は、溶接機250A、溶接棒、アセチレンガス、酸素等の費用であり、労務費の合計額に22％を乗じた金額を上限として計上する。

D－3号代価表　ケーシング引上げ工

1m当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人	0.62			
特殊作業員		人	0.62			
普通作業員		人	1.24			
レボ立坑機運転費		時間	5.0			E－1
トラッククレーン賃料	4.8t～4.9t吊	日	0.62			
諸雑費		式	1			
計						10m当り
1m当り　計						計／10m

備考　底盤コンクリートを打設しない場合には、ケーシング引上げ工を計上しない。

C－2号代価表　底盤コンクリート工

1m³当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
底盤コンクリート打設工		m³				D－4
1m³当り　計						

表－1　底スラブコンクリート量

1箇所当り／呼び径	底スラブコンクリート量
φ1500	1.81m³
φ1800	2.61m³
φ2000	3.22m³

備考

ϕ 1500：0.75×0.75×π×0.3＋0.762×0.762×π×0.7≒1.81
ϕ 1800：0.9025×0.9025×π×0.3＋0.9145×0.9145×π×0.7≒2.61
ϕ 2000：1.004×1.004×π×0.3＋1.016×1.016×π×0.7≒3.22

D－4号代価表　底盤コンクリート打設工

1m³当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人	0.26			
特殊作業員		人	0.26			
普通作業員		人	0.52			
コンクリート	24-18-20-BB	m³	10.4			
諸雑費		式	1			労務費の2％
計						10m³当り
1m³当り　計						計／10m³

備考　諸雑費は、シュート・ホッパ損料等の費用であり、労務費の合計額に2％を乗じた金額を上限として計上する。

Ｃ－３号代価表　圧入掘削設備工

１箇所当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
機械設置撤去工		回				Ｄ－５
機械退避・再設置工		回	n			Ｄ－６
機械移設工		回				Ｄ－７
計						立坑施工箇所当り
１箇所当り　計						計／立坑施工箇所

備考

１．機械退避・再設置工は道路開放時、圧入機の撤去が必要な場合に計上する。
２．機械退避・再設置工の回数は次式により算出する。ただし、小数点酢以下は切り捨てて整数とする。
なお、道路制約条件等により、これにより難い場合は別途考慮する。
ｎ＝（Ｔ１＋Ｔ２＋Ｔ３＋Ｔ４＋Ｔ５）／８
ここに、ｎ：機械退避・再設置回数
Ｔ１：機械設置撤去時間（1.4時間）
Ｔ２：圧入掘削積み込み時間（掘削深×１ｍ当り施工時間〔時間／ｍ〕）
Ｔ３：ケーシング溶接時間（総溶接延長×0.1時間）
Ｔ４：底盤コンクリート打設時間（底盤コンクリート量×0.2時間）
Ｔ５：ケーシング引上げ時間（ケーシング引上げ長×0.5時間）
３．機械移設工は同一場内で立坑構築に必要な設備を、次の立坑に移動するための積込み・運搬作業。

Ｄ－５号代価表　機械設置撤去工

１回当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人	0.17			
特殊作業員		人	0.17			
普通作業員		人	0.34			
レボ立坑機運転費		時間	1.4			Ｅ－１
トラッククレーン賃料	4.8t～4.9t吊	日	0.17			
諸雑費		式	1			
１回当り　計						

備考　立坑１箇所毎に１回計上する。

D－6号代価表　機械退避・再設置工

1回当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人	0.16			
特殊作業員		人	0.16			
普通作業員		人	0.32			
レボ立坑機運転費		時間	1.3			E－1
トラッククレーン賃料	4.8t～4.9t吊	日	0.16			
諸雑費		式	1			
1回当り　計						

備考
1．道路開放時、圧入機等の撤去が必要な場合に計上する。
2．トラッククレーンで移動できる範囲に仮置き場が必要である。
3．仮置き場が確保できない場合は、別途運搬回送費を計上する。

D－7号代価表　機械移設工

1回当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人	0.25			
特殊作業員		人	0.25			
普通作業員		人	0.50			
トラッククレーン賃料	4.8t～4.9t吊	日	0.25			
諸雑費		式	1			
1回当り　計						

備考　同一場内で立坑構築に必要な設備を、次の立坑に移動する場合に計上する。

C－4号代価表　ケーシング存置

1m当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
刃先		個				
鋼製ケーシング	φ　　,t=	m				
計						ケーシング存置(m)当り
1m当り　計						計／ケーシング存置(m)

C－5号代価表　仮設ケーシング損料

1式当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
仮設ケーシング損料	φ　　用	式	1			
1式当り　計						

C－6号代価表　立坑水替工

1箇所当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
うわ水排水工		箇所				D－8
排水水処理費		m^3				必要に応じて計上
1箇所当り　計						

D－8号代価表　うわ水排水工

1箇所当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人	0.12			
普通作業員		人	0.12			
クレーン装置付付トラック運転費	t積，　t吊	時間	1			E－4
諸雑費		式	1			
1箇所当り　　計						

備考

1．地下水位以下の掘削に伴い、水中でコンクリートを打設する場合に計上する。
2．諸経費は、発動発電機運転費及び潜水ポンプ・ポンプの配管材料の損料等の費用であり、労務費とトラッククレーン賃料の合計額に7％を乗じた金額を上限として計上する。

E－4号代価表　クレーン装置付トラック運転費

1時間当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
軽油		ℓ				0.050L/kW.h×　kW
特殊運転手		人				T＝
クレーン装置付付トラック損料	t積，　t吊	時間	1			kW
諸雑費		式	1			
1時間当り　　計						

備考

1．$T=\dfrac{\text{年間標準運転時間}}{\text{年間標準運転日数}}$
2．労務歩掛は、国土交通省土木工事積算基準の建設機械運転労務による。

C－7号代価表　レイタンス運搬処理工

1箇所当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
レイタンス処理工		箇所				D－9
泥水処分工		m^3				D－10
泥水処分料		m^3				
1箇所当り　計						

Ｄ－９号代価表　レイタンス処理工

１箇所当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人	0.17			
特殊作業員		人	0.17			
普通作業員		人	0.17			
諸雑費		式	1			
１箇所当り　　計						

備考　地下水位以下の掘削に伴い、水中でコンクリートを打設する場合に計上する。

Ｄ－１０号代価表　泥水処分工

１m^3当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
汚泥吸排車運転費	3.1t～3.5t車	時間				Ｅ－５
計						10m^3当り
１m^3当り　計						計／10m^3

泥水10m^3当りの運転時間（汚泥吸排車3.1～3.5ｔ車）

積込機械・規格	汚泥吸排車　吸引管径　75mm						
運転機種・規格	汚泥吸排車3.1～3.5ｔ車						
	ＤＩＤ区間：なし						
運転距離（km）	2.2以下	4.3以下	7.5以下	12.7以下	22.4以下	41.3以下	60.0以下
運転時間（時）	2.1	2.4	2.7	3.3	4.1	5.1	7.0
	ＤＩＤ区間：あり						
運転距離（km）	2.1以下	4.1以下	7.0以下	11.6以下	20.3以下	32.6以下	60.0以下
運転時間（時）	2.1	2.4	2.7	3.3	4.1	5.1	7.0

備考
1．上表は、泥水10m^3を運搬する時間である。
2．運転距離は片道であり、往路と復路が異なる時は、平均値とする。
3．自動車専用道路を利用する場合には。別途考慮する。
4．ＤＩＤ（人口集中地区）は、総務省統計局の国勢調査報告資料添付の人口集中地区境界図によるものとする。
5．運搬距離が、60kmを超える場合には、別途積上げとする。

E－5号代価表　汚泥吸排車運転

1時間当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
軽油		ℓ				0.052L/kW.h×　kW
一般運転手		人				T＝
汚泥吸排車損料	3.1～3.5t積	時間	1			kW
諸雑費		式	1			
計						
1時間当り						

備考

1．$T=\dfrac{\text{年間標準運転時間}}{\text{年間標準運転日数}}$

2．労務歩掛は、国土交通省土木工事積算基準の建設機械運転労務による。

表－2　レイタンス発生量

1箇所当り ＼ 呼び径	レイタンス発生量
φ1500	0.71m³
φ1800	1.03m³
φ2000	1.27m³

備考

φ1500：0.75×0.75×π×0.4≒0.71
φ1800：0.9025×0.9025×π×0.4≒1.03
φ2000：1.004×1.004×π×0.4≒1.27

C－8号代価表　残土処分工

1m³当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
残土運搬工		m³	1			D－11
残土処分費		m³	1			
計						

表－3　1m当りの掘削土量

1m当り ＼ 呼び径	1m当り掘削土量
φ1500	1.83
φ1800	2.63
φ2000	3.25

備考

φ1500：0.762×0.762×π≒1.83
φ1800：0.9145×0.9145×π≒2.63
φ2000：1.016×1.016×π≒3.25

Ｄ－１１号代価表　残土運搬工

※参考積算編Ｐ140『６．ケーシング立坑築造工における残土処分工について』を参考にして下さい。

Ｃ－９号代価表　機械運搬工

※参考積算編Ｐ123『１―１．レボ立坑機の運搬について』を参考にして下さい。

Ｃ－１０号代価表　ケーシング撤去工

※参考積算編Ｐ127『２．ケーシング撤去工』を参考にして下さい。

小型立坑　鋼製ケーシング式

REVOⅡ立坑機

レボⅡ工法

積　算　編

小型立坑　鋼製ケーシング式土留工　積算

レボⅡ工法　鋼製ケーシング式土留工

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
鋼製ケーシング圧入掘削工		m				C－1
底盤コンクリート工		m^3				C－2
圧入掘削設備工		箇所				C－3
鋼製ケーシング存置		m				C－4
仮設ケーシング損料		式				C－5
立坑水替工		箇所				C－6
レイタンス運搬処理工		箇所				C－7
残土処分工		m^3				C－8
機械運搬工		回				C－9
ケーシング撤去工		m				C－１０
直接工事費　合計						

C－１号代価表　鋼製ケーシング圧入掘削工

１m当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
圧入掘削積込み工		m				D－1
ケーシング溶接工		箇所				D－2
ケーシング引上げ工		m				D－3
計						掘削深(m)当り
１m当り　計						計／掘削深(m)

D－１号代価表　圧入掘削積込み工

１m当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人	M×a/T			
特殊作業員		人	M×a/T			
普通作業員		人	M×a/T			
レボⅡ立坑機運転費		時間	a			E－1
掘削機運転費	テレスコピック式	時間	a/1.9			E－2
クレーン装置付トラック運転費	t積,　t吊	時間	a			E－3
諸雑費		式	1			
１m当り　計						

備考

1．圧入掘削積込み工の数量は、掘削深を計上する。
2．M ：１日当りの配置人員（技術編　P23　４－８－１　歩掛参照）
3．a ：１m当りの施工時間（技術編　P23　４－８－２　歩掛参照）
4．T ：圧入機の運転日当りの運転時間　$T=\dfrac{\text{年間標準運転時間}}{\text{年間標準運転日数}}$

E－１号代価表　レボⅡ立坑機運転費

１時間当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
軽油		ℓ				0.175L/kW.h×kW
特殊運転手		人				T＝
レボⅡ立坑機損料		時間	1			5.5kW
諸雑費		式	1			
１時間当り　計						

備考

1．$T=\dfrac{\text{年間標準運転時間}}{\text{年間標準運転日数}}$
2．機械損料には、レボⅡ立坑機およびウエイトの損料を含む。

E－2号代価表　掘削機運転費

1時間当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
軽油		ℓ				0.175L/kW.h×kW
特殊運転手		人				T＝
掘削機損料		時間	1			kW
諸雑費		式	1			
1時間当り　計						

備考
1．現場状況、掘削深に応じた掘削機を用いる。
2．$T=\frac{\text{年間標準運転時間}}{\text{年間標準運転日数}}$
3．労務歩掛は、国土交通省土木工事積算基準の建設機械運転労務による。

E－3号代価表　クレーン装置付トラック運転費

1時間当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
軽油		ℓ				0.050L/kW.h×　kW
特殊運転手		人				T＝
クレーン装置付付トラック損料	t積，　t吊	時間	1			kW
諸雑費		式	1			
1時間当り　　計						

備考
1．$T=\frac{\text{年間標準運転時間}}{\text{年間標準運転日数}}$
2．労務歩掛は、国土交通省土木工事積算基準の建設機械運転労務による。

D－2号代価表　ケーシング溶接工

1箇所当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
ケーシング溶接工		m				E－4
1箇所当り　計						

備考　ケーシング溶接工の数量は、ケーシングの割り付けにより、溶接接合箇所数分計上する。

E－4号代価表　ケーシング溶接工

1m当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人	0.15			
溶接工		人	0.30			
諸雑費		式	1			労務費の22%
計						10m当り
1m当り　計						計／10m

備考　諸雑費は、溶接機250A、溶接棒、アセチレンガス、酸素等の費用であり、労務費の合計額に22%を乗じた金額を上限として計上する。

D－3号代価表　ケーシング引上げ工

1m当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人	0.62			
特殊作業員		人	0.62			
普通作業員		人	1.24			
レボⅡ立坑機運転費		時間	5.0			E－1
クレーン装置付トラック運転費	t積、 t吊	時間	5.0			E－3
諸雑費		式	1			
計						10m当り
1m当り　計						計／10m

備考　底盤コンクリートを打設しない場合には、ケーシング引上げ工を計上しない。

C－2号代価表　底盤コンクリート工

1m³当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
底盤コンクリート打設工		m³	1.81			D－4
1m³当り　計						

備考　$\phi 1500$：$0.75\times0.75\times\pi\times0.3+0.762\times0.762\times\pi\times0.7\fallingdotseq1.81$

D－4号代価表　底盤コンクリート打設工

1㎥当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人	0.26			
特殊作業員		人	0.26			
普通作業員		人	0.52			
コンクリート	24-18-20-BB	㎥	10.4			
諸雑費		式	1			労務費の２％
計						10㎥当り
1㎥当り　計						計／10㎥

備考　諸雑費は、シュート・ホッパ損料等の費用であり、労務費の合計額に2%を乗じた金額を上限として計上する。

C－3号代価表　圧入掘削設備工

1箇所当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
機械設置撤去工		回				D－5
機械退避・再設置工		回	n			D－6
機械移設工		回				D－7
計						立坑施工箇所当り
1箇所当り　計						計／立坑施工箇所

備考
1．機械退避・再設置工は道路開放時、圧入機の撤去が必要な場合に計上する。
2．機械退避・再設置工の回数は次式により算出する。ただし、小数点酢以下は切り捨てて整数とする。
なお、道路制約条件等により、これにより難い場合は別途考慮する。

$n=(T1+T2+T3+T4+T5)/8$

ここに、n：機械退避・再設置回数
T１：機械設置撤去時間（1.4時間）
T２：圧入掘削積み込み時間（掘削深×１m当り施工時間〔時間／m〕）
T３：ケーシング溶接時間（総溶接延長×0.1時間）
T４：底盤コンクリート打設時間（底盤コンクリート量×0.2時間）
T５：ケーシング引上げ時間（ケーシング引上げ長×0.5時間）

D－5号代価表　機械設置撤去工

1回当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人	0.3			
特殊作業員		人	0.3			
普通作業員		人	0.6			
レボⅡ立坑機運転費		時間	2.2			E－1
クレーン装置付トラック運転費	t積、　t吊	時間	2.2			E－3
諸雑費		式	1			
1回当り　計						

備考　立坑１箇所毎に１回計上する。

D－6号代価表　機械退避・再設置工

1回当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人	0.29			
特殊作業員		人	0.29			
普通作業員		人	0.58			
レボⅡ立坑機運転費		時間	2.0			E－1
クレーン装置付トラック運転費	t積、 t吊	時間	2.0			E－3
諸雑費		式	1			
1回当り　計						

備考
1．道路開放時、圧入機等の撤去が必要な場合に計上する。
2．クレーンで移動できる範囲に仮置き場が必要である。
3．仮置き場が確保できない場合は、別途運搬回送費を計上する。

D－7号代価表　機械移設工

1回当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人	0.25			
特殊作業員		人	0.25			
普通作業員		人	0.50			
トラッククレーン賃料	4.8t～4.9t吊	日	0.25			
諸雑費		式	1			
1回当り　計						

備考　同一場内で立坑構築に必要な設備を、次の立坑に移動する場合に計上する。

C－4号代価表　ケーシング存置

1m当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
刃先		個				
鋼製ケーシング	φ1500,t=12	m				
計						ケーシング存置(m)当り
1m当り　計						計／ケーシング存置(m)

C－5号代価表　仮設ケーシング損料

1式当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
仮設ケーシング損料	φ1500用	式	1			
1式当り　計						

C－6号代価表　立坑水替工

1箇所当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
うわ水排水工		箇所				D－8
排水水処理費		m^3				必要に応じて計上
1箇所当り　計						

D－8号代価表　うわ水排水工

1箇所当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人	0.12			
普通作業員		人	0.12			
クレーン装置付付トラック運転費	t積，　t吊	時間	1			
諸雑費		式	1			
1箇所当り　　計						

備考
1．地下水位以下の掘削に伴い、水中でコンクリートを打設する場合に計上する。
2．諸経費は、発動発電機運転費及び潜水ポンプ・ポンプの配管材料の損料等の費用であり、労務費とトラッククレーン賃料の合計額に7％を乗じた金額を上限として計上する。

C－7号代価表　レイタンス運搬処理工

1箇所当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
レイタンス処理工		箇所	0.71			D－9
泥水処分工		m^3	0.71			D－10
泥水処分料		m^3				
1箇所当り　計						

備考　$\phi 1500$：$0.75 \times 0.75 \times \pi \times 0.4 \fallingdotseq 0.71$

D－9号代価表　レイタンス処理工

1箇所当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人	0.17			
特殊作業員		人	0.17			
普通作業員		人	0.17			
諸雑費		式	1			
1箇所当り　　計						

備考　地下水位以下の掘削に伴い、水中でコンクリートを打設する場合に計上する。

Ｄ－１０号代価表　泥水処分工

1㎥当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
汚泥吸排車運転費	3.1t～3.5t車	時間				Ｅ－５
計						10㎥当り
1㎥当り　計						計／10㎥

泥水10㎥当りの運転時間（汚泥吸排車3.1～3.5ｔ車）

積込機械・規格	汚泥吸排車　吸引管径　75mm						
運転機種・規格	汚泥吸排車3.1～3.5ｔ車						
	ＤＩＤ区間：なし						
運転距離（km）	2.2以下	4.3以下	7.5以下	12.7以下	22.4以下	41.3以下	60.0以下
運転時間（時）	2.1	2.4	2.7	3.3	4.1	5.1	7.0
	ＤＩＤ区間：あり						
運転距離（km）	2.1以下	4.1以下	7.0以下	11.6以下	20.3以下	32.6以下	60.0以下
運転時間（時）	2.1	2.4	2.7	3.3	4.1	5.1	7.0

備考
1．上表は、泥水10㎥を運搬する時間である。
2．運転距離は片道であり、往路と復路が異なる時は、平均値とする。
3．自動車専用道路を利用する場合には。別途考慮する。
4．ＤＩＤ（人口集中地区）は、総務省統計局の国勢調査報告資料添付の人口集中地区境界図によるものとする。
5．運搬距離が、60kmを超える場合には、別途積上げとする。

Ｅ－５号代価表　汚泥吸排車運転

1時間当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
軽油		ℓ				0.052L/kW.h×　kW
一般運転手		人				Ｔ＝
汚泥吸排車損料	3.1～3.5t積	時間	1			kW
諸雑費		式	1			
計						
1時間当り						

備考
1．$T=\dfrac{\text{年間標準運転時間}}{\text{年間標準運転日数}}$
2．労務歩掛は、国土交通省土木工事積算基準の建設機械運転労務による。

Ｃ－８号代価表　残土処分工

1 m³当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
残土運搬工		m³	1			Ｄ－１１
残土処分費		m³	1			
計						

備考　1ｍ当りの掘削土量は、ϕ1500：0.762×0.762×π≒1.83

Ｄ－１１号代価表　残土運搬工

※参考積算編Ｐ140『６．ケーシング立坑築造工における残土処分工について』を参考にして下さい。

Ｃ－９号代価表　機械運搬工

※参考積算編Ｐ124『１―２．レボⅡ立坑機の運搬について』を参考にして下さい。

Ｃ－１０号代価表　ケーシング撤去工

※参考積算編Ｐ127『２．ケーシング撤去工』を参考にして下さい。

小型立坑鋼製ケーシング式

REVO立坑機

レボHGT工法

積　算　編

小型立坑　鋼製ケーシング式土留工（全回転圧入方式）　積算

レボ HGT 工法 鋼製ケーシング式土留工

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
鋼製ケーシング圧入掘削工		m				C-1
底盤コンクリート工		m^3				C-2
圧入掘削設備工		箇所				C-3
鋼製ケーシング存置		m				C-4
仮設ケーシング損料		式				C-5
立坑水替工		箇所				C-6
レイタンス運搬処理工		箇所				C-7
残土処分工		m^3				表 -3、C-8
機械運搬工		回				C-9
ケーシング撤去工		m				C-10
直接工事費　合計						

C－1号代価表　鋼製ケーシング圧入掘削工

1m 当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
圧入掘削積込み工		m				D-1
ケーシング溶接工		箇所				D-2
ケーシング引上げ工		m				D-3
計						掘削深（m）当り
1 m当り　計						計 / 掘削深（m）

D－1号代価表　圧入掘削積込み工

1m 当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
世話役		人	M × a/T			
特殊作業員		人	M × a/T			
普通作業員		人	M × a/T			
レボ HGT 立坑機運転費		時間	a			E-1
掘削機運転費	テレスコピック式	時間	a/1.9			E-2
トラッククレーン賃料	25t 吊	日	a/T			
諸雑費		式	1			
1m 当り　計						

備考

1. 圧入掘削積込み工の数量は、掘削深を計上する。
2. M：1日当りの配置人員
3. a：1m 当りの施工時間
4. T：圧入機の運転日当りの運転時間　T＝年間標準運転時間／年間標準運転日数

E－1号代価表　レボ HGT 立坑機運転費

1 時間当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
軽油		ℓ				0.175L/kw.h × kW
特殊運転手		人				T=
レボ HGT 立坑機損料		時間	1			37.5KW
諸雑費		式	1			
1 時間当り　計						

備考

1. $T = \dfrac{\text{年間標準運転時間}}{\text{年間標準運転日数}}$
2. 機械損料には、レボ HGT 立坑機およびウエイトの損料を含む。

E－2号代価表　掘削機運転費

1時間当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
軽油		ℓ				0.175 L /kW. h×kW
特殊運転手		人				T=
掘削機損料		時間	1			KW
諸雑費		式	1			
1時間当り　計						

備考

1. 現場状況、掘削深に応じた掘削機を用いる。
2. $T = \dfrac{\text{年間標準運転時間}}{\text{年間標準運転日数}}$
3. 労務歩掛は、国土交通省土木工事積算基準の建設機械運転労務による。

D－2号代価表　ケーシング溶接工

1箇所当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
ケーシング溶接工		m				E-3
1箇所当り　計						

備考　ケーシング溶接工の数量は、ケーシングの割り付けにより、溶接接合箇所数分計上する。

E－3号代価表　ケーシング溶接工

1m当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
世話役		人	0.15			
溶接工		人	0.30			
諸雑費		式	1			労務費の22%
計						10m当り
1m当り　計						計/10m

備考　諸雑費は、溶接機250A、溶接棒、アセチレンガス、酸素等の費用であり、労務費の合計額に22%を乗じた金額を上限として計上する。

D－3号代価表　ケーシング引上げ工

1m 当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
世話役		人	0.62			
特殊作業員		人	0.62			
普通作業員		人	1.24			
レボ HGT 立坑機運転費		時間	5.0			E-1
トラッククレーン賃料	25t 吊	日	0.62			
諸雑費		式	1			
計						10m 当り
1 m当り　計						計 /10m

備考　底盤コンクリートを打設しない場合には、ケーシング引上げ工を計上しない。

C－2号代価表　底盤コンクリート工

$1m^3$ 当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
底盤コンクリート打設工		m^3				D-4
$1m^3$ 当り　計						

表－1底スラブコンクリート量

外径 ＼ 1 箇所当り	底スラブコンクリート量
φ 1524	$1.81m^3$
φ 1590	$1.97m^3$
φ 1829	$2.61m^3$
φ 1890	$2.78m^3$
φ 2032	$3.22m^3$
φ 2090	$3.40m^3$
φ 2590	$7.82m^3$

備考

ϕ 1524：$0.75 \times 0.75 \times \pi \times 0.3 + 0.762 \times 0.762 \times \pi \times 0.7 \fallingdotseq 1.81$

ϕ 1590：$0.783 \times 0.783 \times \pi \times 0.3 + 0.795 \times 0.795 \times \pi \times 0.7 \fallingdotseq 1.97$

ϕ 1829：$0.9025 \times 0.9025 \times \pi \times 0.3 + 0.9145 \times 0.9145 \times \pi \times 0.7 \fallingdotseq 2.61$

ϕ 1890：$0.933 \times 0.933 \times \pi \times 0.3 + 0.945 \times 0.945 \times \pi \times 0.7 \fallingdotseq 2.78$

ϕ 2032：$1.004 \times 1.004 \times \pi \times 0.3 + 1.016 \times 1.016 \times \pi \times 0.7 \fallingdotseq 3.22$

ϕ 2090：$1.033 \times 1.033 \times \pi \times 0.3 + 1.045 \times 1.045 \times \pi \times 0.7 \fallingdotseq 3.40$

ϕ 2590：$1.276 \times 1.276 \times \pi \times 0.5 + 1.295 \times 1.295 \times \pi \times 1.0 \fallingdotseq 7.82$

D－4号代価表　底盤コンクリート打設工

1m^3 当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
世話役		人	0.26			
特殊作業員		人	0.26			
普通作業員		人	0.52			
コンクリート	24-18-20-BB	㎥	10.4			
諸雑費		式	1			労務費の 2%
計						10m^3 当り
1m^3 当り　計						計 /10m^3

備考　諸雑費は、シュート・ホッパ損料等の費用であり、労務費の合計額に 2%を乗じた金額を上限として計上する。

C－3号代価表　圧入掘削設備工

1 箇所当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
機械設置撤去工		回				D-5
機械退避・再設置工		回	n			D-6
機械移設工		回				D-7
計						立坑施工箇所当り
1 箇所当り　計						計 / 立坑施工箇所

備考

1. 機械退避・再設置工は道路開放時、圧入機の撤去が必要な場合に計上する。
2. 機械退避・再設置工の回数は次式により算出する。ただし、小数点以下は切り捨てて整数とする。
   なお、道路制約条件等により、これにより難い場合は別途考慮する。
   n ＝（T1 ＋ T2 ＋ T3 ＋ T4 ＋ T5）/ 8
   ここに、n：　機械退避・再設置回数
   T1：機械設置撤去時間（1.4 時間）
   T2：圧入掘削積み込み時間（掘削深× 1m 当り施工時間［時間 /m］）
   T3：ケーシング溶接時間（総溶接延長× 0.1 時間）
   T4：底盤コンクリート打設時間（底盤コンクリート量× 0.2 時間）
   T5：ケーシング引上げ時間（ケーシング引上げ長× 0.5 時間）
3. 機械移設工は同一場内で立坑構築に必要な設備を、次の立坑に移動する為の積込み・運搬作業。

D－5号代価表　機械設置撤去工

1 回当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
世話役		人	0.17			
特殊作業員		人	0.17			
普通作業員		人	0.34			
レボ HGT 立坑機運転費		時間	1.4			E-1
トラッククレーン賃料	25t 吊	日	0.17			
諸雑費		式	1			
1 回当り　計						

備考　立坑 1 箇所毎に 1 回計上する。

D－6号代価表　機械退避・再設置工

1回当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
世話役		人	0.16			
特殊作業員		人	0.16			
普通作業員		人	0.32			
レボ HGT 立坑機運転費		時間	1.3			E-1
トラッククレーン賃料	25 t吊	日	0.16			
トレーラー運転費	32 t積	時間	1			F -1
諸雑費		式	1			
1回当り						

備考
1. 道路開放時、圧入機等の撤去が必要な場合に計上する。
2. トラッククレーンで移動できる範囲に仮置場が必要である。
3. 仮置場が確保できない場合は、別途運搬回送費を計上する。

F－1号代価表　トレーラー運転費

1時間当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
軽油		ℓ				0.075L/kW × kW
一般運転手		人				T=
トレーラー損料	32t 積	時間	1			
諸雑費		式	1			
1時間当り　計						

D－7号代価表　機械移設工

1回当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
世話役		人	0.25			
特殊作業員		人	0.25			
普通作業員		人	0.5			
トラッククレーン賃料	25 t吊	日	0.25			
トレーラー運転費	32 t積	時間	1			F -1
諸雑費		式	1			
1回当り　計						

備考　同一場内で立坑構築に必要な設備を、次の立坑に移動する場合に計上する。

C－4号代価表　鋼製ケーシング存置

1m 当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
刃先		個				
刃先	超硬ビット	個				
鋼製ケーシング	φ　　,t=	m				
計						ケーシング存置（m）当り
1m 当り　計						計/ケーシング存置（m）

C－5号代価表　仮設ケーシング損料

1式当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
仮設ケーシング損料	φ　　用	式	1			
1式当り　計						

C－6号代価表　立坑水替工

1箇所当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
うわ水排水工		箇所				D-8
排出水処理費		㎥				必要に応じて計上
1箇所当り　計						

D－8号代価表　うわ水排水工

1箇所当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
世話役		人	0.12			
普通作業員		人	0.12			
ｸﾚｰﾝ装置付ﾄﾗｯｸ運転費	t積，t吊	時間	1			E-4
諸雑費		式	1			
1箇所当り　計						

備考

1. 地下水位以下の掘削に伴い、水中でコンクリートを打設する場合に計上する。
2. 諸経費は、発動発電機運転費及び潜水ポンプ･ポンプの配管材料の損料等の費用であり、労務費とトラッククレーン賃料の合計額に7%を乗じた金額を上限として計上する。

E－4号代価表　クレーン装置付トラック運転費

1時間当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
軽油		ℓ				0.050L/kW.h×k W
特殊運転手		人				T=
クレーン装置付トラック損料	t積，t吊	時間	1			KW
諸雑費		式	1			
1箇所当り　計						

備考

1. $T = \dfrac{\text{年間標準運転時間}}{\text{年間標準運転日数}}$
2. 労務歩掛は、国土交通省土木工事積算基準の建設機械運転労務による。

C－7号代価表　レイタンス運搬処理工

1箇所当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
レイタンス処理工		箇所				D-9
泥水処分工		m^3				D-10
泥水処分料		m^3				
1箇所当り　計						

C－9号代価表　レイタンス処理工

1箇所当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
世話役		人				
特殊作業員		人				
普通作業員		人				
諸雑費		式				
1箇所当り						

備考　地下水位以下の掘削に伴い、水中でコンクリートを打設する場合に計上する。

C－10号代価表　泥水処分工

1m^3 当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
汚泥吸排車運転費	3.1t～3.5t 車	時間				E-5
強力吸引車運転費	4.5 t	時間				E-6
特殊強力吸引車運転費	4.5 t	時間				E-7
計						10m^3 当り
1m^3 当り　計						計/10m^3

泥水10m^3 当りの運転時間（汚泥吸排車3.1～3.5t車・強力吸引車4.5 t車・特殊強力吸引車4.5 t車）

積込機械・規格	汚泥吸排車・強力吸引車・特殊強力吸引車　吸引管径　75 mm						
運転機種・規格	汚泥吸排車 3.1～3.5t 車・強力吸引車 4.5t 車・特殊強力吸引車 4.5 t車						
	DID 区間：なし						
運転距離（km）	2.2 以下	4.3 以下	7.5 以下	12.7 以下	24.4 以下	41.3 以下	60.0 以下
運転時間（時）	2.1	2.4	2.7	3.3	4.1	5.1	7.0
	DID 区間：あり						
運転距離（km）	2.1 以下	4.1 以下	7.0 以下	11.6 以下	20.3 以下	32.6 以下	60.0 以下
運転時間（時）	2.1	2.4	2.7	3.3	4.1	5.1	7.0

備考
1. 上表は、泥水10m^3 を運搬する時間である。
2. 運転距離は片道であり、往路と復路が異なる場合は、平均値とする。
2. 自動車専用道路を利用する場合には、別途考慮する。
2. DID（人口集中地区）は、総務省統計局の国勢調査報告資料添付の人工集中地区境界図によるものとする。
2. 運搬距離が、60km を超える場合には、別途積上げとする

表－2 泥水処分工　種別

種　　別	立坑深　H1 (m)	吸引能力（t/h)
汚泥吸排車	H1 ≦ 7.0	10
強力吸引車	7.0 ＜ H1 ≦ 10.0	25
特殊強力吸引車	10.0 ＜ H1	50

E－5号代価表　汚泥吸排車運転費

1時間当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
軽油		ℓ				0.052L/kW.h×　kW
一般運転手		人				T=
汚泥吸排車損料	3.1～3.5t積	時間	1			KW
諸雑費		式	1			
計						
1時間当り　計						

備考

1. $T = \dfrac{\text{年間標準運転時間}}{\text{年間標準運転日数}}$
2. 労務歩掛は、国土交通省土木工事積算基準の建設機械運転労務による。

E－6号代価表　強力吸引車運転費

1時間当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
軽油		ℓ				0.052L/kW.h×　kW
一般運転手		人				T=
強力吸引車損料	4.5 t	時間	1			KW
諸雑費		式	1			
計						
1時間当り　計						

備考

1. $T = \dfrac{\text{年間標準運転時間}}{\text{年間標準運転日数}}$
2. 労務歩掛は、国土交通省土木工事積算基準の建設機械運転労務による。

E－7号代価表　特殊強力吸引車運転費

1時間当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
軽油		ℓ				0.052L/kW.h×　kW
一般運転手		人				T=
特殊強力吸引車損料	4.5 t	時間	1			KW
諸雑費		式	1			
計						
1時間当り　計						

備考

1. $T = \dfrac{\text{年間標準運転時間}}{\text{年間標準運転日数}}$
2. 労務歩掛は、国土交通省土木工事積算基準の建設機械運転労務による。

表－3 レイタンス発生量

外径 ＼ 1箇所当り	レイタンス発生量
φ 1524	0.71m^3
φ 1590	0.77m^3
φ 1829	1.03m^3
φ 1890	1.09m^3
φ 2032	1.27m^3
φ 2090	1.34m^3
φ 2590	2.04m^3

備考

ϕ 1524：0.750 × 0.750 × π × 0.4 ≒ 0.71
ϕ 1590：0.783 × 0.783 × π × 0.4 ≒ 0.77
ϕ 1829：0.9025 × 0.9025 × π × 0.4 ≒ 1.03
ϕ 1890：0.933 × 0.933 × π × 0.4 ≒ 1.09
ϕ 2032：1.004 × 1.004 × π × 0.4 ≒ 1.27
ϕ 2090：1.033 × 1.033 × π × 0.4 ≒ 1.34
ϕ 2590：1.276 × 1.276 × π × 0.4 ≒ 2.04

C－8 号代価表　残土処分工

1m^3 当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
残土運搬工		m^3	1			D-11
残土処分工		m^3	1			
計						

表－4 1m 当りの掘削土量

外径 ＼ 1m 当り	1m 当たり掘削土量
φ 1524	1.83m^3
φ 1590	1.99m^3
φ 1829	2.63m^3
φ 1890	2.81m^3
φ 2032	3.25m^3
φ 2090	3.43m^3
φ 2590	5.27m^3

備考

ϕ 1524：0.762 × 0.762 × π ≒ 1.83
ϕ 1590：0.795 × 0.795 × π ≒ 1.99
ϕ 1829：0.9145 × 0.9145 × π ≒ 2.63
ϕ 1890：0.945 × 0.945 × π ≒ 2.81
ϕ 2032：1.016 × 1.016 × π ≒ 3.25
ϕ 2090：1.045 × 1.045 × π ≒ 3.43
ϕ 2590：1.295 × 1.295 × π ≒ 5.27

Ｄ－１１号代価表　残土運搬工

※参考積算編 P.140『6.　ケーシング立坑築造工における残土処分工について』を参考して下さい。

Ｃ－９号代価表　機械運搬工

※参考積算編 P.126『1-4. レボ HGT 立坑機の運搬について』を参考にして下さい。

Ｃ－１０号代価表　ケーシング撤去工

※参考積算編 P.128『2. ケーシング撤去工』を参考にして下さい。

低耐荷力方式

REVO推進機

Uモール工法

積　算　編

Uモール工法　硬質塩ビ管推進工法　仮管併用圧入２工程（管置換方式）

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
誘導管推進工		m				C－1
仮管推進工		m				C－2
埋設管推進工(管置換工)		m				C－3
スクリューコンベヤ類撤去工		m				C－4
発生土処分工		m				C－5
坑口工		箇所				C－6
既設マンホール坑口工		箇所				C－7
鏡切り		箇所				C－8
推進設備工		箇所				C－9
推進設備据換工		箇所				C－10
材料費	呼び径φ	本				L＝800
計						

C－１号代価表　誘導管推進工

１m当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人	1			
特殊作業員		人	1			
普通作業員		人	2			
クレーン装置付トラック運転費	4t積,2.9t吊	時間	T			C－1－1
誘導管推進工機械器具損料(1)		日	1			C－1－2
誘導管推進工機械器具損料(2)		日	1			C－1－3
諸雑費		式	1			労務費の12%
計						１日当り
１m当り　　計						計／誘導管日進量

備考
１．諸雑費は、電力に関する経費等であり、労務費の合計額の12%を上限として計上する。
２．クレーン装置付トラックの運転日当たり運転時間　$T=\dfrac{\text{年間標準運転時間}}{\text{年間標準運転日数}}$

C－1－1号代価表　クレーン装置付トラック運転費

1時間当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
軽油		ℓ				0.050L/kW.h×　kW
特殊運転手		人				T＝
クレーン装置付トラック損料	4t積,2.9t吊	時間	1			kW
諸雑費		式	1			
1時間当り　計						

備考
1．$T=\frac{年間標準運転時間}{年間標準運転日数}$
2．労務歩掛は、建設省土木工事積算基準の建設機械運転労務による。

C－1－2号代価表　誘導管推進工機械器具損料（1）

1日当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
推進機損料		日	1			機械損料一覧表
1日当り　計						

備考　推進機損料は、運転日当りの運転時間（6.75時間）を乗じた損料とする。

C－1－3号代価表　誘導管推進工機械器具損料（2）

1日当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
推進器具類損料(固定部)		式	1			推進器具類損料一覧表
推進器具類損料(変動部)		m	L			推進器具類損料一覧表
計						1m当り
1日当り　計						計×誘導管日進量

備考
1．推進器具類損料（固定部）は推進延長により使用数量が一定な器具類の合計額であり、推進区間ごとに計上する。
2．推進器具類損料（変動部）は推進延長により使用数量が変化する器具類の合計額である。ここでは、Lは1推進区間の延長とする。

C－2号代価表　仮管推進工

1m当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人	1			
特殊作業員		人	1			
普通作業員		人	2			
滑材		ℓ				必要に応じて計上
クレーン装置付トラック運転費	4t積,2.9t吊	時間	T			C－1－1
仮管推進工機械器具損料(1)		日	1			C－2－1
仮管推進工機械器具損料(2)		日	1			C－2－2
滑材注入機械器具損料		日	1			必要に応じて計上
諸雑費		式	1			労務費の12%
計						1日当り
1m当り　計						計／仮管推進日進量

備考
1．諸雑費は、電力に関する経費等であり、労務費の合計額の12%を上限として計上する。
2．クレーン装置付トラックの運転日当たり運転時間 $T=\dfrac{\text{年間標準運転時間}}{\text{年間標準運転日数}}$

C－2－1号代価表　仮管推進工機械器具損料（1）

1日当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
推進機損料		日	1			機械損料一覧表
1日当り　計						

備考
推進機損料は、運転日当りの運転時間（6.75時間）を乗じた損料とする。

C－2－2号代価表　仮管推進工機械器具損料（2）

1日当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
推進器具類損料(固定部)		式	1			推進器具類損料一覧表
推進器具類損料(変動部)		m	L			推進器具類損料一覧表
計						1m当り
1日当り　計						計×仮管推進日進量

備考
1．推進器具類損料（固定部）は推進延長により使用数量が一定な器具類の合計額であり、推進区間ごとに計上する。
2．推進器具類損料（変動部）は推進延長により使用数量が変化する器具類の合計額である。
ここでは、Lは1推進区間の延長とする。

C－3号代価表　埋設管推進工（管置換工）

1m当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人	1			
特殊作業員		人	1			
普通作業員		人	2			
クレーン装置付トラック運転費	4t積,2.9t吊	時間	T			C－1－1
埋設管推進工機械器具損料(1)		日	1			C－3－1
埋設管推進工機械器具損料(2)		日	1			C－3－2
諸雑費		式	1			労務費の12%
計						1日当り
1m当り　計						計／埋設管推進日進量

備考
1．諸雑費は、電力に関する経費等であり、労務費の合計額の12%を上限として計上する。
2．クレーン装置付トラックの運転日当たり運転時間　$T=\dfrac{\text{年間標準運転時間}}{\text{年間標準運転日数}}$

C－3－1号代価表　埋設管推進工機械器具損料（1）

1日当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
推進機損料		日	1			機械損料一覧表
1日当り　計						

備考
推進機損料は、運転日当りの運転時間（6.75時間）を乗じた損料とする。

C－3－2号代価表　埋設管推進工機械器具損料（2）

1日当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
推進器具類損料(固定部)		式	1			推進器具類損料一覧表
推進器具類損料(変動部)		m	L			推進器具類損料一覧表
計						1m当り
1日当り　計						計×埋設管推進日進量

備考
1．推進器具類損料（固定部）は推進延長により使用数量が一定な器具類の合計額であり、推進区間ごとに計上する。
2．推進器具類損料（変動部）は推進延長により使用数量が変化する器具類の合計額である。ここでは、Lは1推進区間の延長とする。

C－4号代価表　スクリューコンベヤ類撤去工

1m当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人	1			
特殊作業員		人	1			
普通作業員		人	2			
クレーン装置付トラック運転費	4t積,2.9t吊	時間	T			C－1－1
諸雑費		式	1			
計						1日当り
1m当り　　計						計／日当りスクリューコンベヤ類撤去量

備考
1．スクリューコンベヤ類撤去延長は推進延長とする。
2．クレーン装置付トラックの運転日当たり運転時間 $T=\dfrac{\text{年間標準運転時間}}{\text{年間標準運転日数}}$

表－1　スクリューコンベヤ類標準撤去量

単位：m／日

呼び径(mm)	日当り撤去量(m)
150～500	35

C－5号代価表　発生土処分工

1m当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
ダンプトラック運転費		m^3	1			C－5－1
捨場処分費		m^3	1			
計						1m^3当り
1m当り　　計						計×m当り掘削土量

備考
1．ダンプトラックは原則として借り上げ方式とし、残土の積込み形態、運搬形態に適した方法で積算する。
2．ダンプトラックの車種及び台数は、1日当り掘削土量、仮置場の有無及び捨土に要する往復時間等を考慮して決めるものとする。数量は、1以上の正数とする。

Ｃ－５－１号代価表　ダンプトラック運転工

1㎥当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
一般運転手		人				表－２－１
軽油		ℓ				表－２－１
ダンプトラック損料	○t車	日	1			Ｃ－５－２、表－２
タイヤ損耗費		時間	1			
諸雑費		式	1			
計						１日当り
1㎥当り　　計						計／1日当り運搬土量

備考
１．標準として、２ｔ、４ｔダンプトラックの借り上げ方式とする。
　　なおこれにより難しい場合は、積み上げ方式とすることができる。
２．軽油、一般運転手、タイヤ損耗の数量は、運転時間に応じて計上する。

表－２　ダンプトラックの車種と積載量

単位：㎥

車種／土質	４ｔ車	２ｔ車
全土質	2.0	1.0

表－２－１　ダンプトラックの車種と積載量

1時間当り

車種／種目	４ｔ車	２ｔ車
運転手（人）	0.16	0.16
軽油（ℓ）	7.3	4.8

表－２－２　ダンプトラック借り上げ基準

種　別／1日当たり掘削土量	４ｔ車		２ｔ車	
	回数	運転時間	回数	運転時間
1.1㎥／日以下	―	―	1	2
1.1～2.2㎥／日	1	2	2	4
2.2㎥／日以上	2	4	3	6

C－5－2号代価表　ダンプトラック損料

1日当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
ダンプトラック	○t車	日	1	a		
ダンプトラック	○t車	時間	H	b		
1日当り　　計						

備考
a：供用１日当り損料
b：運転１時間当り損料
H：ダンプトラック１日当り実働時間（時間）

C－6号代価表　坑口工

1箇所当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人	0.2			
溶接工		人	0.2			
普通作業員		人	0.2			
止水器		組	1			
鋼材溶接工		m				C－6－1、表3
鋼材切断工		m				C－6－3、表3
クレーン装置付トラック運転費	4t積,2.9t吊	時間	T×0.2			C－1－1
1箇所当り　計						

備考
1．坑口工は、立坑内への土砂の流入を防止するために設置するもので、必要に応じ計上する。なお、１推進区間の必要箇所数は、発進部及び到達部の２箇所となる。ただし、既設マンホール坑口工を計上する場合は１箇所のみとなる。

2．クレーン装置付トラックの運転日当たり運転時間　$T=\dfrac{\text{年間標準運転時間}}{\text{年間標準運転日数}}$

表－3　坑口工歩掛表

1箇所当り

種目／呼び径	世話役（人）	溶接工（人）	普通作業員（人）	止水器（組）	鋼材溶接工（m）	鋼材切断工（m）	クレーン装置付トラック運転費（時間）
φ150	0.2	0.2	0.2	1	1.7	3.4	T×0.2
φ200	0.2	0.2	0.2	1	1.9	3.8	T×0.2
φ250	0.2	0.2	0.2	1	2.1	4.2	T×0.2
φ300	0.2	0.2	0.2	1	2.3	4.6	T×0.2
φ350	0.2	0.2	0.2	1	2.6	5.2	T×0.2
φ400	0.2	0.2	0.2	1	2.9	5.8	T×0.2
φ450	0.2	0.2	0.2	1	3.1	6.2	T×0.2
φ500	0.2	0.2	0.2	1	3.4	6.8	T×0.2

C－6－1号代価表　鋼材溶接工

1m当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人	0.01			
溶接工		人	0.076			
普通作業員		人	0.021			
電機溶接機運転	250A	日	0.076			C－6－2
溶接棒		kg	0.4			
諸雑費		式	1			溶接棒の30%
1m当り　　計						

備考
1．諸雑費は溶接棒金額の30%以内を上限として計上できる。
2．エンジン付き溶接機を使用する。

C－6－2号代価表　電機溶接機運転

1日当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
軽油		ℓ				0.227L/kW.h×　kW×6.7h
電機溶接機損料	エンジン付 250A	日	1			kW
諸雑費		式	1			
1日当り　　計						

C－6－3号代価表　鋼材切断工

1m当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人	0.007			
溶接工		人	0.053			
普通作業員		人	0.020			
酸素		m^3	0.163			
アセチレン		kg	0.028			
諸雑費		式	1			アセチレンの30%
1m当り　　計						

備考　諸雑費はアセチレン金額の30%以内を上限として計上できる。

C－7号代価表　既設マンホール坑口工

1箇所当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
止水器		組	1			表－4
コンクリートアンカ	φ12×100㎜	本				表－4
急結止水セメント	急結止水ｾﾒﾝﾄ	kg				表－4
はつり工		人				表－4
普通作業員		人				表－4
1箇所当り　　計						

備考
1．止水器は、既設マンホール用止水器を計上する。
2．止水器撤去時、湧水が多く撤去が困難と思われる場合は、止水のための補足注入を計上する。
3．既設マンホール坑口工は、必要に応じて計上する。

表－4　既設マンホール坑口歩掛表

1箇所当り

種目／呼び径	止水器（組）	コンクリートアンカ（本）	急結止水セメント（kg）	はつり工（人）	普通作業員（人）	摘　　要
φ150	1	8	11	0.3	2	
φ200	1	8	16	0.3	2	
φ250	1	8	22	0.4	2	
φ300	1	8	28	0.4	2	
φ350	1	12	36	0.4	3	
φ400	1	12	44	0.5	3	
φ450	1	12	53	0.5	3	
φ500	1	12	57	0.5	3	

C－8号代価表　鏡切り

1箇所当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
鏡切り工		m				表－5、C－8－1
1箇所当り　　計						

表－5　鏡切り延長

1箇所当り

種目／呼び径	φ150	φ200	φ250	φ300	φ350	φ400	φ450	φ500
延長(m)	1.0	1.2	1.4	1.7	1.9	2.1	2.4	2.7

C－8－1号代価表　鏡切り工

1m当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人				表－6
溶接工		人				表－6
普通作業員		人				表－6
諸雑費		式	1			表－6
1m当り　　計						

備考　諸雑費は酸素及びアセチレン等の費用で、表－6の率を労務費に乗じた金額を上限として計上する。

表－6　鏡切り工歩掛表（切断延長1m当り）

単位：人／m

土留種類 / 種目	ライナープレート	鋼矢板		鋼製ケーシング
		Ⅱ型	Ⅲ型	
世話役	0.006	0.007	0.008	0.008
溶接工	0.051	0.057	0.059	0.059
普通作業員	0.019	0.022	0.022	0.022
諸雑費	労務費の5%	労務費の10%		

C－9号代価表　推進設備工

1箇所当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人	2			
特殊作業員		人	3			
普通作業員		人	4			
電工		人	1			
クレーン装置付トラック運転費	4t積,2.9t吊	時間	T×2			C－1－1
諸雑費		式	1			
1箇所当り　　計						

備考
1．両発進の場合は、推進設備据換工を1箇所計上し、その際推進設備工は計上しない。
2．クレーン装置付トラックの運転日当たり運転時間　$T=\dfrac{\text{年間標準運転時間}}{\text{年間標準運転日数}}$

C－10号代価表　推進設備据換工

1箇所当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人	3			
特殊作業員		人	4.5			
普通作業員		人	6			
電工		人	1.5			
クレーン装置付トラック運転費	4t積,2.9t吊	時間	T×3			C－1－1
諸雑費		式	1			
1箇所当り　　計						

備考　クレーン装置付トラックの運転日当たり運転時間　$T=\frac{\text{年間標準運転時間}}{\text{年間標準運転日数}}$

鋼製さや管方式

REVO推進機

Uモール工法

積　算　編

鋼製さや管方式　水平ボーリング1工程　鋼管削進工法　積算

Uモール工法　鋼管削進工法　水平ボーリング１工程

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
材料費		式	1			C－1
鋼管削進工		式	1			C－2
仮設備工		式	1			C－3
直接工事費　　合計						

C－１号代価表　材料費

１式当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
鋼管	呼び径φ	本				L＝　　mm
メタルクラウン	φ　　用	個				
塩ビ管	VUφ	本				
塩ビスペーサー	φ　　用	個				
塩ビソケット	φ　　用	個				
１式当り　　計						

C－２号代価表　鋼管削進工

１式当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
管セット工		本				C－2－1
管削進工		m				C－2－2
発生土処分工		m				C－2－3
既設マンホール到達工		箇所				C－2－4
塩ビ管挿入工		m				C－2－5
中詰注入工		m^3				(表－３)×延長(m) C－2－6
１式当り　　計						

C－3号代価表　仮設備工

1式当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
推進設備工		箇所				C－3－1
推進設備据換工		箇所				C－3－2
坑口工		箇所				C－3－3
鏡切り		箇所				C－3－4
刃口取付工		箇所				C－3－5
刃口撤去工		箇所				C－3－6
中詰注入設備工		箇所				C－3－7
中詰注入設備据換工		箇所				C－3－8
1式当り　　計						

C－2－1号代価表　管セット工

1本当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人				表－1
特殊作業員		人				表－1
普通作業員		人				表－1
鋼材溶接工		m				表－1－1 C－2－1－1
クレーン装置付トラック運転費	4t積,2.9t吊	時間				表－1 C－2－1－2
諸雑費		式	1			
1本当り　　計						

表－1　管セット工歩掛表

1本当り

鋼管呼び径 / 種目	φ350以下	φ400 φ450	φ500以上
世話役（人）	0.15	0.23	0.30
特殊作業員（人）	0.30	0.46	0.60
普通作業員（人）	0.15	0.23	0.30
クレーン装置付トラック運転（時間）	1.00	1.50	2.00

表１－１　鋼管溶接長

１本当り

鋼管呼び径	φ150	φ200	φ250	φ300	φ350	φ400	φ450	φ500	φ550	φ600
鋼管溶接長(m)	0.52	0.68	0.84	1.00	1.12	1.23	1.44	1.60	1.78	1.92

Ｃ－２－１－１号代価表　鋼材溶接工

１m当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人	0.01			
溶接工		人	0.076			
普通作業員		人	0.021			
電機溶接機運転	エンジン付 250A	日	0.076			Ｃ－２－１－１－１
溶接棒		kg	0.4			
諸雑費		式	1			溶接棒の30％
１m当り　　計						

備考
１．諸雑費は溶接棒金額の30％以内を上限として計上できる。
２．エンジン付き溶接機を使用する。

Ｃ－２－１－１－１号代価表　電機溶接機運転

１日当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
軽油		ℓ				0.227L/kW.h×　kW×6.7h
電機溶接機損料	エンジン付 250A	日	1			kW
諸雑費		式	1			
１日当り　　計						

Ｃ－２－１－２号代価表　クレーン装置付トラック運転

１時間当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
軽油		ℓ				0.050L/kW.h×　kW
特殊運転手		人				Ｔ＝
クレーン装置付トラック損料	4t積,2.9t吊	時間	1			kW
諸雑費		式	1			
１時間当り　　計						

備考
１．$T=\dfrac{\text{年間標準運転時間}}{\text{年間標準運転日数}}$
２．労務歩掛は、国土交通省土木工事積算基準の建設機械運転労務による。

C－2－2号代価表　管削進工

1m当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人	1			
特殊作業員		人	2			
普通作業員		人	1			
クレーン装置付トラック運転費	4t積,2.9t吊	時間	T			C－2－1－2
機械・器具損料		日	1			C－2－2－1
諸雑費		式	1			労務費の12%
計						1日当り
1m当り　計						計／日進量

備考
1．諸雑費は、電力に関する経費等であり、労務費の合計額の12%を上限として計上する。
2．クレーン装置付トラックの運転日当たり運転時間 $T=\dfrac{\text{年間標準運転時間}}{\text{年間標準運転日数}}$

C－2－2－1号代価表　機械・器具損料

1日当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
推進機械損料		日	1			機械損料一覧表
油圧ホース損料		組	1			機械損料一覧表
1日当り　計						

備考
推進機械損料は、運転日当りの運転時間(6.75時間)を乗じた損料とする。

C－2－3号代価表　発生土処分工

1m当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
ダンプトラック運転費		m^3	1			C－2－3－1
捨場処分費		m^3	1			
計						1m^3当り
1m当り　計						計×m当り掘削土量

備考
1．ダンプトラックは原則として借り上げ方式とし、残土の積込み形態、運搬形態に適した方法で積算する。
2．ダンプトラックの車種及び台数は、1日当り掘削土量、仮置場の有無及び捨土に要する往復時間等を考慮して決めるものとする。数量は、1以上の正数とする。

C－2－3－1号代価表　ダンプトラック運転工

1㎥当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
一般運転手		人				表－2－1
軽油		ℓ				表－2－1
ダンプトラック損料	○t車	日	1			C－2－3－1－1
タイヤ損耗費		時間	1			
諸雑費		式	1			
計						1日当り
1㎥当り　　計						計／1日当り運搬土量

備考
1．標準として、2t、4tダンプトラックの借り上げ方式とする。
　なおこれにより難しい場合は、積み上げ方式とすることができる。
2．軽油、一般運転手、タイヤ損耗の数量は、運転時間に応じて計上する。

表－2　ダンプトラックの車種と積載量

単位：㎥

車種／土質	4 t 車	2 t 車
全土質	2.0	1.0

表－2－1　ダンプトラックの車種と積載量

1時間当り

車種／種目	4 t 車	2 t 車
運転手（人）	0.16	0.16
軽油（ℓ）	7.3	4.8

表－2－2　ダンプトラック借り上げ基準

種　別／1日当たり掘削土量	4 t 車		2 t 車	
	回数	運転時間	回数	運転時間
1.1㎥／日以下	―	―	1	2
1.1～2.2㎥／日	1	2	2	4
2.2㎥／日以上	2	4	3	6

C－2－3－1－1号代価表　ダンプトラック損料

1日当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
ダンプトラック	○t車	日	1	a		
ダンプトラック	○t車	時間	H	b		
1日当り　　計						

備考
a：供用１日当り損料
b：運転１時間当り損料
H：ダンプトラック１日当り実働時間（時間）

C－2－4号代価表　既設マンホール到達工

1箇所当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人	0.5			
特殊作業員		人	1			
普通作業員		人	0.5			
機械・器具損料		日	0.5			C－2－2－1
諸雑費		式	1			
1箇所当り　　計						

備考
1．既設マンホール到達工は、必要に応じて計上する。
2．諸雑費は、電力に関する経費等であり、労務費の合計額の６％を上限として計上する。

C－2－5号代価表　塩ビ管挿入工

1m当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人	1			
特殊作業員		人	1			
普通作業員		人	2			
クレーン装置付トラック運転費	4t積,2.9t吊	時間	T			C－2－1－2
諸雑費		式	1			
計						1日当り
1m当り　　計						計／挿入日進量

備考
1．諸雑費は、電力に関する経費等であり、労務費の合計額の12%を上限として計上する。
2．クレーン装置付トラックの運転日当たり運転時間 $T=\frac{\text{年間標準運転時間}}{\text{年間標準運転日数}}$

C－2－6号代価表　中詰注入工

1 m³当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人	1			
特殊作業員		人	2			
普通作業員		人	1			
クレーン装置付トラック運転費	4t積,2.9t吊	日	1			C－2－1－2
グラウトポンプ損料	4kw 横型単筒 30~70ℓ／分	日	1			
グラウトミキサー損料	立型2槽 2kw 200ℓ×2	日	1			
中詰注入材		m³	2			C－2－6－1
諸雑費		式	1			
計						1日当り
1 m³当り　計						計／1日当り注入量

備考
1．1m当り注入量は別途算出する。
2．1日当り注入量は2m³／日とする。
3．配合済み注入材を使用する場合は別途考慮する。
4．諸雑費は、電力料、グラウトホース（38mm×20m）損料の費用で、グラウトホンプ損料及びグラウトミキサー損料の合計金額に16%の率を乗じた金額を上限として計上する。

C－2－6－1号代価表　中詰注入材

1 m³当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
セメント		t	0.5			
ベントナイト		kg	100			
水		m³	0.8			
1 m³当り　計						

表－3　中詰注入量

単位：m^3／m

鋼管呼び径 ＼ 塩ビ管呼び径	φ150	φ200	φ250	φ300	φ350	φ400	φ450	φ500	φ550	φ600
φ100	0.009	0.023	0.041	0.063	0.081	0.110	0.143	0.181	0.222	0.267
φ150	—	0.012	0.030	0.052	0.070	0.099	0.132	0.169	0.211	0.256
φ200	—	—	0.015	0.037	0.055	0.084	0.117	0.154	0.195	0.241
φ250	—	—	—	0.017	0.035	0.064	0.098	0.135	0.176	0.221
φ300	—	—	—	—	0.012	0.041	0.074	0.111	0.153	0.198
φ350	—	—	—	—	—	0.013	0.046	0.083	0.125	0.170
φ400	—	—	—	—	—	—	0.015	0.052	0.094	0.139
φ450	—	—	—	—	—	—	—	0.017	0.059	0.104
φ500	—	—	—	—	—	—	—	—	0.020	0.065

C－3－1号代価表　推進設備工

1箇所当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人	2			
特殊作業員		人	3			
普通作業員		人	4			
電工		人	1			
クレーン装置付トラック運転費	4t積,2.9t吊	時間	T×2			Uモール900および Uモール1500の場合 C－2－1－2
トラッククレーン賃料	油圧式4.8 ～4.9t吊	日	2			Uモール2000の場合
諸雑費		式	1			
1箇所当り　　計						

備考

1．両発進の場合は、推進設備据換工を1箇所計上し、その際推進設備工は計上しない。
2．UモールUモール900およびUモール1500およびUモール1500Hはクレーン装置付トラックを用い、Uモール2000はトラッククレーンを用いる。
3．クレーン装置付トラックの運転日当たり運転時間　$T=\dfrac{\text{年間標準運転時間}}{\text{年間標準運転日数}}$

C－3－2号代価表　推進設備据換工

1箇所当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人	3			
特殊作業員		人	4.5			
普通作業員		人	6			
電工		人	1.5			
クレーン装置付トラック運転費	4t積,2.9t吊	時間	T×3			Uモール900および Uモール1500の場合 C－2－1－2
トラッククレーン賃料	油圧式4.8 ～4.9t吊	日	3			Uモール2000の場合
諸雑費		式	1			
1箇所当り　　計						

備考

1．UモールU900およびUモール1500およびUモール1500Hはクレーン装置付トラックを用い、Uモール2000はトラッククレーンを用いる。

2．クレーン装置付トラックの運転日当たり運転時間 $T=\dfrac{\text{年間標準運転時間}}{\text{年間標準運転日数}}$

C－3－3号代価表　坑口工

1箇所当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人	0.2			
溶接工		人	0.2			
普通作業員		人	0.2			
止水器		組	1			
鋼材溶接工		m				C－2－1－1、表4
鋼材切断工		m				C－3－3－1、表4
クレーン装置付トラック運転費	4t積,2.9t吊	時間	T×0.2			C－2－1－2
1箇所当り　計						

備考

1．坑口工は、立坑内への土砂の流入を防止するために設置するもので、必要に応じ計上する。なお、1推進区間の必要箇所数は、発進部及び到達部の2箇所となる。ただし、既設マンホール到達工を計上する場合は1箇所のみとなる。

2．クレーン装置付トラックの運転日当たり運転時間 $T=\dfrac{\text{年間標準運転時間}}{\text{年間標準運転日数}}$

表－4　坑口工歩掛表

1箇所当り

種目 / 呼び径	世話役（人）	溶接工（人）	普通作業員（人）	止水器（組）	鋼材溶接工（m）	鋼材切断工（m）	クレーン装置付トラック運転費（時間）
φ150	0.2	0.2	0.2	1	1.7	3.4	T×0.2
φ200	0.2	0.2	0.2	1	1.9	3.8	T×0.2
φ250	0.2	0.2	0.2	1	2.1	4.2	T×0.2
φ300	0.2	0.2	0.2	1	2.3	4.6	T×0.2
φ350	0.2	0.2	0.2	1	2.6	5.2	T×0.2
φ400	0.2	0.2	0.2	1	2.9	5.8	T×0.2
φ450	0.2	0.2	0.2	1	3.1	6.2	T×0.2
φ500	0.2	0.2	0.2	1	3.4	6.8	T×0.2
φ550	0.2	0.2	0.2	1	3.6	7.2	T×0.2
φ600	0.2	0.2	0.2	1	4.1	7.8	T×0.2

C－3－3－1代価表　鋼材切断工

1m当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人	0.007			
溶接工		人	0.053			
普通作業員		人	0.020			
酸素		m^3	0.163			
アセチレン		kg	0.028			
諸雑費		式	1			アセチレンの30％
1m当り　　計						

備考　諸雑費はアセチレン金額の30％以内を上限として計上できる。

C－3－4号代価表　鏡切り

1箇所当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
鏡切り		m				表－5、C－3－4－1
1箇所当り　　計						

表－5　鏡切り延長

1箇所当り

種目＼呼び径	φ150	φ200	φ250	φ300	φ350	φ400	φ450	φ500	φ550	φ600
延長（m）	1.0	1.2	1.4	1.7	1.9	2.1	2.4	2.7	3.0	3.3

C－3－4－1号代価表　鏡切り工

1m当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
世話役		人				表－6
溶接工		人				表－6
普通作業員		人				表－6
諸雑費		式	1			表－6
1m当り　　計						

表－6　鏡切り工歩掛表（切断延長1m当り）

単位：人／m

種目＼土留種類	ライナープレート	鋼矢板		鋼製ケーシング
		Ⅱ型	Ⅲ型	
世話役	0.006	0.007	0.008	0.008
溶接工	0.051	0.057	0.059	0.059
普通作業員	0.019	0.022	0.022	0.022
諸雑費	労務費の5%	労務費の10%		

C－3－5号代価表　刃口取付工

1箇所当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
世話役		人				表－7
特殊作業員		人				表－7
普通作業員		人				表－7
鋼材溶接工		m				表－7－1 C－2－1－1
クレーン装置付トラック運転費	4t積,2.9t吊	時間				表－7 C－2－1－2
諸雑費		式	1			
1箇所当り　　計						

表－7　刃口取付歩掛表

鋼管呼び径 / 種目	φ350以下	φ400 φ450	φ500 φ550	φ600
世話役（人）	0.08	0.10	0.13	0.15
特殊作業員（人）	0.16	0.20	0.26	0.30
普通作業員（人）	0.08	0.10	0.13	0.15
クレーン装置付トラック運転(時間)	0.50	0.66	0.83	1.00

表7－1　刃口溶接長

1箇所当り

鋼管呼び径	φ150	φ200	φ250	φ300	φ350	φ400	φ450	φ500	φ550	φ600
刃口溶接長(m)	0.52	0.68	0.84	1.00	1.12	1.23	1.44	1.60	1.78	1.92

C－3－6号代価表　刃口撤去工

1箇所当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人				表－8
特殊作業員		人				表－8
普通作業員		人				表－8
鋼材切断工		m				表－8－1 C－3－3－1
クレーン装置付トラック運転費	4t積,2.9t吊	時間				表－8 C－2－1－2
諸雑費		式	1			
1箇所当り　計						

表－8　刃口撤去歩掛表

鋼管呼び径 ＼ 種目	φ350以下	φ400 φ450	φ500 φ550	φ600
世話役（人）	0.08	0.10	0.13	0.15
特殊作業員（人）	0.16	0.20	0.26	0.30
普通作業員（人）	0.08	0.10	0.13	0.15
クレーン装置付トラック運転(時間)	0.50	0.66	0.83	1.00

表8－1　刃口切断長

1箇所当り

鋼管呼び径	φ150	φ200	φ250	φ300	φ350	φ400	φ450	φ500	φ550	φ600
刃口溶接長(m)	0.52	0.68	0.84	1.00	1.12	1.23	1.44	1.60	1.78	1.92

C－3－7号代価表　中詰注入設備工

1箇所当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人	0.5			
特殊作業員		人	1.5			
普通作業員		人	0.5			
クレーン装置付トラック運転費	4t積,2.9t吊	時間	T×0.5			C－2－1－2
諸雑費		式	1			
1箇所当り　計						

備考

1．両発進の場合は、中詰注入設備据換工を1箇所計上し、その際中詰注入設備工は計上しない。

2．クレーン装置付トラックの運転日当たり運転時間 $T=\dfrac{\text{年間標準運転時間}}{\text{年間標準運転日数}}$

C－3－8号代価表　中詰注入設備据換工

1箇所当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人	0.75			
特殊作業員		人	2.25			
普通作業員		人	0.75			
クレーン装置付トラック運転費	4t積,2.9t吊	時間	T×0.75			C－2－1－2
諸雑費		式	1			
1箇所当り　計						

備考　クレーン装置付トラックの運転日当たり運転時間 $T=\frac{\text{年間標準運転時間}}{\text{年間標準運転日数}}$

既設管取付削進工法　積算

Uモール工法　既設管取付削進工法

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
材料費		式	1			C－1
鋼管削進工		式	1			C－2
仮設備工		式	1			C－3
直接工事費　　合計						

C－1号代価表　材料費

1式当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
鋼管	呼び径φ	本				L＝　　mm、鞘管
メタルクラウン	φ　　用	個				さや管用
鋼管	呼び径φ	本				L＝　　mm、コア抜用
メタルクラウン	φ　　用	個				コア抜用
塩ビ管	VUφ	本				
塩ビスペーサー	φ　　用	個				
塩ビソケット	φ　　用	個				
既設管接続リング	φ　　用	個				
1式当り　　計						

C－2号代価表　鋼管削進工

1式当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
管セット工		本				C－2－1
管削進工		m				C－2－2
発生土処分工		m				C－2－3
塩ビ管挿入工		m				C－2－5
中詰注入工		m^3				(表－3)×延長(m) C－2－6
既設管到達工		箇所				C－2－7
コア抜き工		箇所				C－2－8
既設管接続工		箇所				C－2－9
1式当り　　計						

C－3号代価表　仮設備工

1式当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
推進設備工		箇所				C－3－1
推進設備据換工		箇所				C－3－2
坑口工		箇所				C－3－3
鏡切り		箇所				C－3－4
刃口取付工	さや管	箇所				C－3－5
刃口取付工	コア抜管	箇所				C－3－5
刃口撤去工	コア抜管	箇所				C－3－6
中詰注入設備工		箇所				C－3－7
中詰注入設備据換工		箇所				C－3－8
1式当り　　計						

C－2－7号代価表　既設管到達工

1箇所当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人	0.5			
特殊作業員		人	1			
普通作業員		人	0.5			
機械・器具損料		日	0.5			C－2－2－1
諸雑費		式	1			労務費の6%
1箇所当り　計						

備考　諸雑費は、電力に関する経費等であり、労務費の合計額の6%を上限として計上する。

C－2－8号代価表　コア抜き工

1箇所当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人	1			
特殊作業員		人	2			
普通作業員		人	1			
機械・器具損料		日	1			C－2－2－1
諸雑費		式	1			労務費の12%
1箇所当り　計						

備考　諸雑費は、電力に関する経費等であり、労務費の合計額の12%を上限として計上する。

C－2－9号代価表　既設管接続工

1箇所当り

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
世話役		人	0.5			
特殊作業員		人	0.5			
普通作業員		人	1			
諸雑費		式	1			
1箇所当り　計						